

## 協議事項1 天神社の総合調査について

## 1 現在の進捗状況と今後のスケジュール

	調査員	調査 協力員	文審	事務局	スケジュール	備 考
調査内容の検討						第1回会議
調査員等の依頼（役割分担）			△	○	H30年10月	
文化財等の確認	○	○		○	必要に応じて随時	
調査・研究の方向性	○	⇔	○		H30年10・11月	研究素材の洗い出し等
個別文化財の調査・研究						
調査・研究	○	⇔			～H31年2月	役割分担により
中間報告・調整	○		○		1月	個別に実施
価値付け	○		○		1月	個別に実施
関連文化財群のまとめ						
価値付け・まとめ	○				2月	第2回会議
個別成果の確認		○	○	○	2月	第2回会議
方向性の検討			○		2月	第2回会議
追加調査等	○	⇔			2～4月	
内容確認等			○		4・5月	
総合調査のまとめ						
中間報告1	○		○	○	R1年5月	文審で確認
一次資料の確認・とりまとめ				○	～9月	
追加調査等	○	○	△	○	8・9月	
中間まとめ	○	○		○	9月	第3回会議
個別成果の精査	○	⇔			9～11月	
確認・とりまとめ				○	～11月	
中間報告2	○		○	○	11月	
委員会内調整	○	○		○	12月	第4回会議
追加調査等	○	⇔		○	12～1月	
ストーリー化	○	○	○	○	1～2月	第5回会議・文審 本日
各論原稿とりまとめ	○	○		○	2月	
事務局草稿作成	△	△		○	2～4月	
確認精査	○	○	○	○	5月	文審
原稿調整	○	○		○	6～7月	
校正	○	○		○	7～9月	
刊行					～12月	

## 2 新たな調査

12月9日（月）実施

建造物

鏝絵の3D写真撮影・計測

鎮守の森

樹種と配置の調査。おおよその高さの調査（別紙）



## 3 第3回天神社総合調査会議の開催

12月24日（火）開催

内容、体裁、今後の調査について

## 4 今後必要な調査

有形文化財

本殿に祀られている菅原道真像、稲荷像の来歴等の調査

奉納額・絵馬のリスト作成

全体

各文化財の計測・写真撮影

その他

過去の調査歴の調査（村田朝雄氏資料等）

周辺地域との関連性の調査

練馬区（特に大泉地区）及び周辺地域の調査

妙福寺・白子川・屋敷林

立地・来歴の調査（下保谷絵図等地図資料） 等

現在の活用の状況把握 等

## 5 天神社総合調査報告書（案）

巻頭図版（カラー 口絵） <古地図、主な文化財の写真 等>

はじめに

例言 <調査協力者の記載含む>

### 第1章 調査に至る経緯

#### 第1節 天神社総合調査の目的 事務局

調査の目的

文化財を総合的に捉え、保護するためのモデルケースをつくること。

天神社の保有する文化財の記録及び価値づけ

関連文化財群としての価値づけ

地域における天神社の歴史的・社会的価値づけ

天神社をめぐるストーリーを用いた広報・活用

調査に至る経緯

過去の調査歴 村田朝雄氏の調査など

文化財保護審議会での審議

天神社総合調査会議

#### 第2節 天神社総合調査の方法 事務局

委員名簿

調査方法

文化財を点捉えず、線や重層的な面として捉え＝ 関連文化財群、それらをつなぐストーリーをみいだす。

市民調査員制度を活用する。

調査経過

個別調査

天神社総合調査会議

### 第2章 天神社 高橋・事務局・(馬場)

#### 第1節 天神社の成り立ち

##### 1. 地域の成り立ち

地理的環境：地下水（宙水）と白子川

歴史的環境：旧石器時代・縄文時代（北宮ノ脇、中荒屋敷遺跡）

下保谷村の成立＝小樽村（練馬区大泉）からの移住  
地名 荒屋敷（＝新屋敷？）など、母村と関連  
家屋の立地 白子川の段丘上＝したみち通り沿い  
近郊農村としての発展

生業

鉄道の開通（大正4年）

村から町、市へ（保谷町：昭和15年 保谷市：昭和42年）

## 2. 下保谷村の字と人名 石田

### 3. 下保谷村の信仰

日蓮宗への改宗

板碑は語る

題目板碑と梵字板碑

→ 題目板碑：下保谷地域の特徴＝日蓮宗の信仰

経塚伝説

経典を埋めた？＝鐘塚

村、宗教の結界（境塚）？＝南入経塚

### 4. 番神様から天神社へ

三十番神信仰の盛衰

本山 妙福寺の三十番神堂

明治時代の廃仏毀釈と福泉寺への避難、新たなご神体

地域の鎮守として

一村一社下保谷村の一社となる

後現稲荷、富岡稲荷など各集落の信仰対象を合祀

現代でも地域の鎮守として愛される→新たな役割を担う？

## 5. 天神社に関連する文献 近辻・石田

蓮見家文書（市指定文化財48号）に記された天神社

<個別読み下しはCD添付等を検討>

## 第2節 鎮守の森

馬場・高橋・事務局

### 1. 敷地の変遷

### 2. 現在の植生

### 3. 「鎮守の森」と「屋敷林」の新たな役割

緑地の保全

コミュニティスペースの役割

### 第3章 各論

#### 第1節 天神社と下保谷の講

高橋・石井・都築

1. 下保谷の講
2. 天神社に残る講に関する文化財

奉納額

伊勢講 →弘化4年 蓮見家文書との関係

御嶽講

石造物

題目講 →題目塔（市指定文化財45号）・墓地との関係  
三十番神 延宝4年（1676年）オビシヤの記録  
＜高橋文太郎『武蔵保谷村郷土資料』＞

3. 現在も続く講と地域の紐帯

現存する講

#### 第2節 天神社と三十番神信仰

高橋・石井・事務局

1. 三十番神信仰
2. 天神社に残されている三十番神勧請札
3. 福泉寺に移された三十番神神像（市指定文化財30号）
4. 三十番神に替わり祀られた神

菅原道真石像（市指定文化財42号）

稲荷像

#### 第3節 天神社の歴史的建造物

鈴木

（0. 現況配置図＊建造物）

1. 歴史的建造物各論

「（蓮見家文章） 式間四面堂」

本殿

拝殿（市指定文化財50号）

（拝殿手前の）小祠

手水舎

三十番神堂

富岡稲荷社

後現稲荷社

天神社鳥居

（富岡稲荷社）鳥居

石垣

## 2. 歴史的建造物の配置の変遷

### 第4節 天神社の鰻絵

鈴木・事務局

1. 鰻絵について
2. 天神社の鰻絵

### 第5節 天神社の石造物

廣瀬

- (0. 現況配置図\*石造物)
1. 天神社の石造物について
2. 天神社 石刻銘文調査記録

### 第6節 天神社と保谷の民俗

石井

1. 天神社が所有する絵馬
2. 保谷囃子（市指定文化財 46 号）  
（上保谷村\*尉殿神社への奉納のお囃子→天神社の例大祭でも演奏）田無ばやしと相対する形で旧保谷市域のお囃子になった？）

### 第7節 現代の天神社

高橋・事務局

1. 氏子の数と広がり
2. 天神社で行われる行事等  
祭事  
地域行事  
その他 活動団体
3. 地域の中の天神社の役割

## 第4章 （総括）天神社をめぐるストーリー

鈴木・事務局

（案） 日蓮の教えと生きる農村 暮らしを支えたみどりと水

## 参考文献

### データ集

1. 天神社が保有する文化財一覧表
2. 文献リスト
3. 鰻絵 3D 計測データ
4. 用語集（あるいは文中にコラム？）

各執筆者・事務局

## 6 天神社をめぐるストーリー

### (案) 日蓮の教えと生きる農村 暮らしを支えたみどりと水

天神社は、下保谷の人々の心の拠りどころとして、常に共にあった。

狩猟採集を生業としていた旧石器時代から、白子川の湧水を求め人々はこの地にやってきた。水稲稲作にはあまり適さない土地だったため、弥生時代以降はしばらく、枯野となるが、中世に入り再び白子川をさかのぼり開拓がはじまる。開拓者たちは母村である小樽村に倣い、日蓮宗を信仰し、三十の神々、番神様と共に生きる暮らしが営まれる。

江戸時代以降、屋敷林や雑木林の緑あふれる「武蔵野」の景観が作られ、天神社の拝殿に描かれた鰻絵の龍と波が示すような豊かな農村文化が育まれていく。

明治になると、宗教政策や鉄道の開通に代表される生活様式の変化等の中で、番神社は天神社へと変わっていくが、祈りの姿は絶えることなく今に続いている。

天神社を鎮守とする下保谷の農村文化は、普通の人々の豊かな日常の輝きに満ちている。その輝きを伝え、守ろうとした一人が渋沢敬三であり、同士、高橋文太郎とともに夢を抱き、この地に民族学博物館を開館した。今日、民族学博物館は姿を消したが、緑の屋敷林の保全やそこでの活動を通して、その意志はつながっている。

日蓮の教えと生きた農村での暮らしと文化。暮らしを支えたみどりと水への想いをところどころで感じることでできるまち下保谷。天神社の龍は昔も今もこれからも、そんなまちや人々を見守りつづけているようである。